

平成30年度 女性医師支援センター事業
関東甲信越・東京ブロック会議 開催報告

平成30年度 女性医師支援担当者連絡会
平成30年12月9日(日)

新潟県医師会理事 高井和江

平成30年度 関東甲信越・東京ブロック会議
平成30年7月21日 東京都医師会館

1. 日本医師会女性医師支援センター事業について

2. 各県・都医師会の取り組みについて報告

- | | | |
|-------|--------|-------|
| ① 茨城県 | ② 神奈川県 | ③ 群馬県 |
| ④ 千葉県 | ⑤ 埼玉県 | ⑥ 栃木県 |
| ⑦ 長野県 | ⑧ 新潟県 | ⑨ 山梨県 |
| ⑩ 東京都 | | |

群馬県医師会保育サポーターバンク

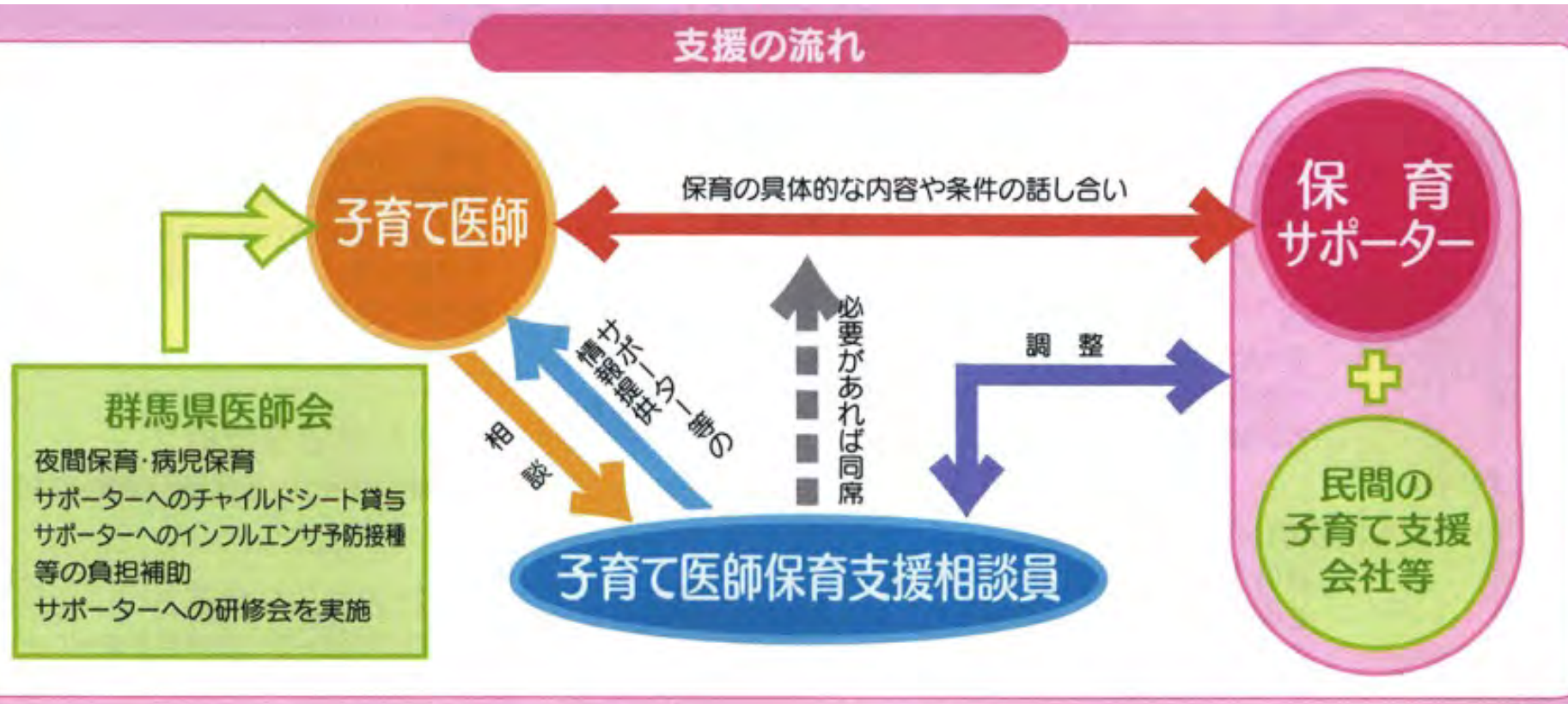
- 平成24年5月設立

- 育児支援を必要とする子育て医師に対して、**子育て医師保育支援相談員**が、そのニーズに沿った**保育サポーター**等の情報提供・紹介を行うことにより、**就業継続を支援**することを目的としている。

- 財源
 - ・「地域医療再生基金」…… 子育て医師保育支援事業
 - ・「地域医療介護総合確保基金」
 - …… 女性医師等就労環境整備・保育支援事業

- 支援の例
 - ・子どもと一緒に自宅(もしくはサポーター宅)で留守番
 - ・ママやパパが都合の悪い時の保育園の迎えと、習い事への送り、など

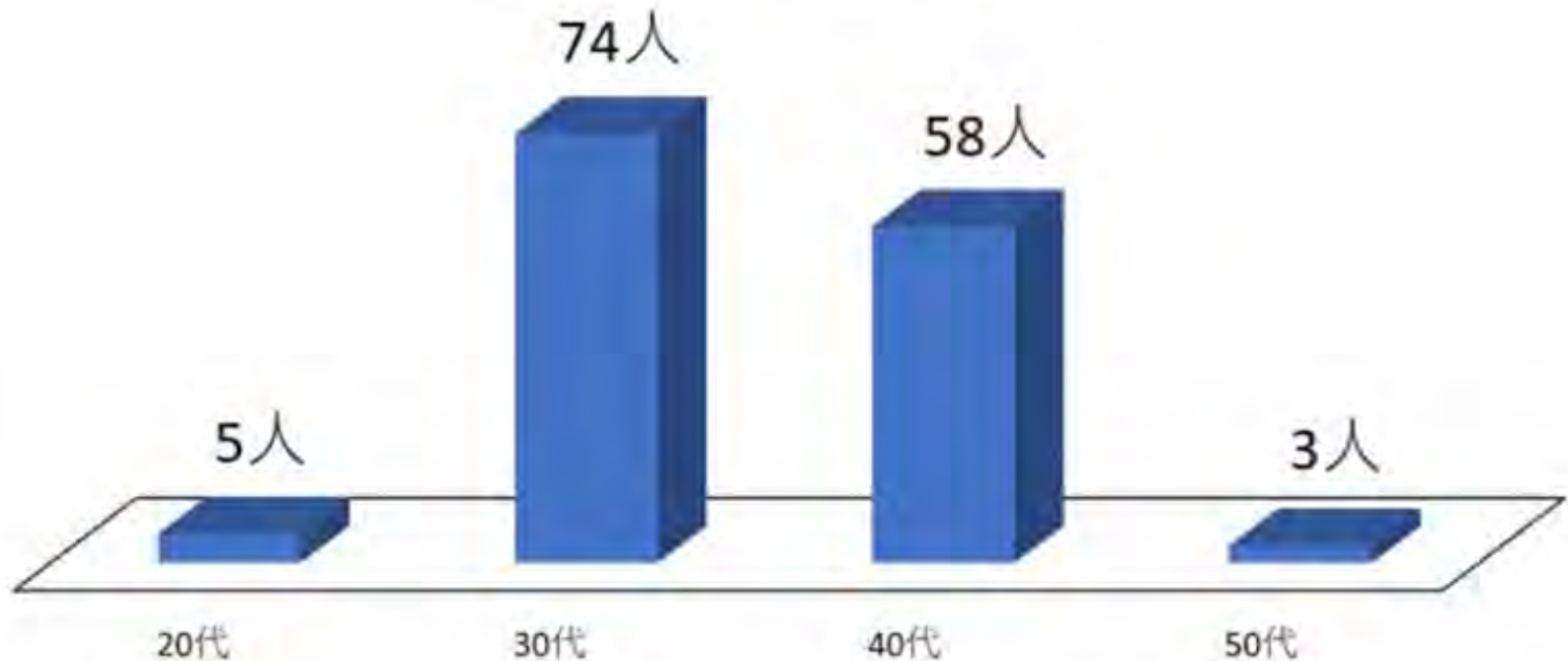
支援の流れ



- ・病児・病後児保育や家事支援も、双方の話し合いで同意すれば可能
- ・報酬は、支援内容に基づき医師とサポーターが話し合って決める。

登録医師数：140名（平成30年3月現在）

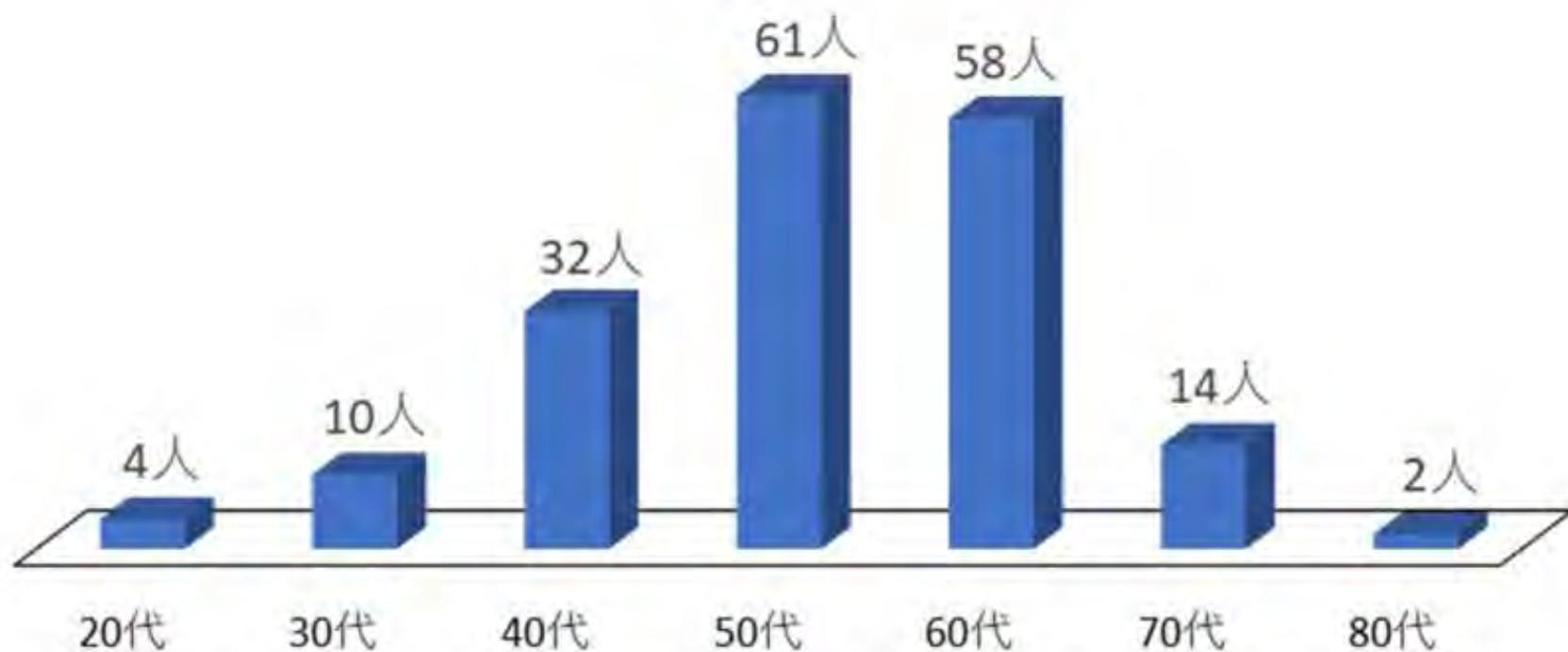
登録医師の年齢



★県内30代女性医師の3割弱、40代女性医師の2割強が登録されていると考えられる。

登録サポーター数：181名（平成30年3月現在）

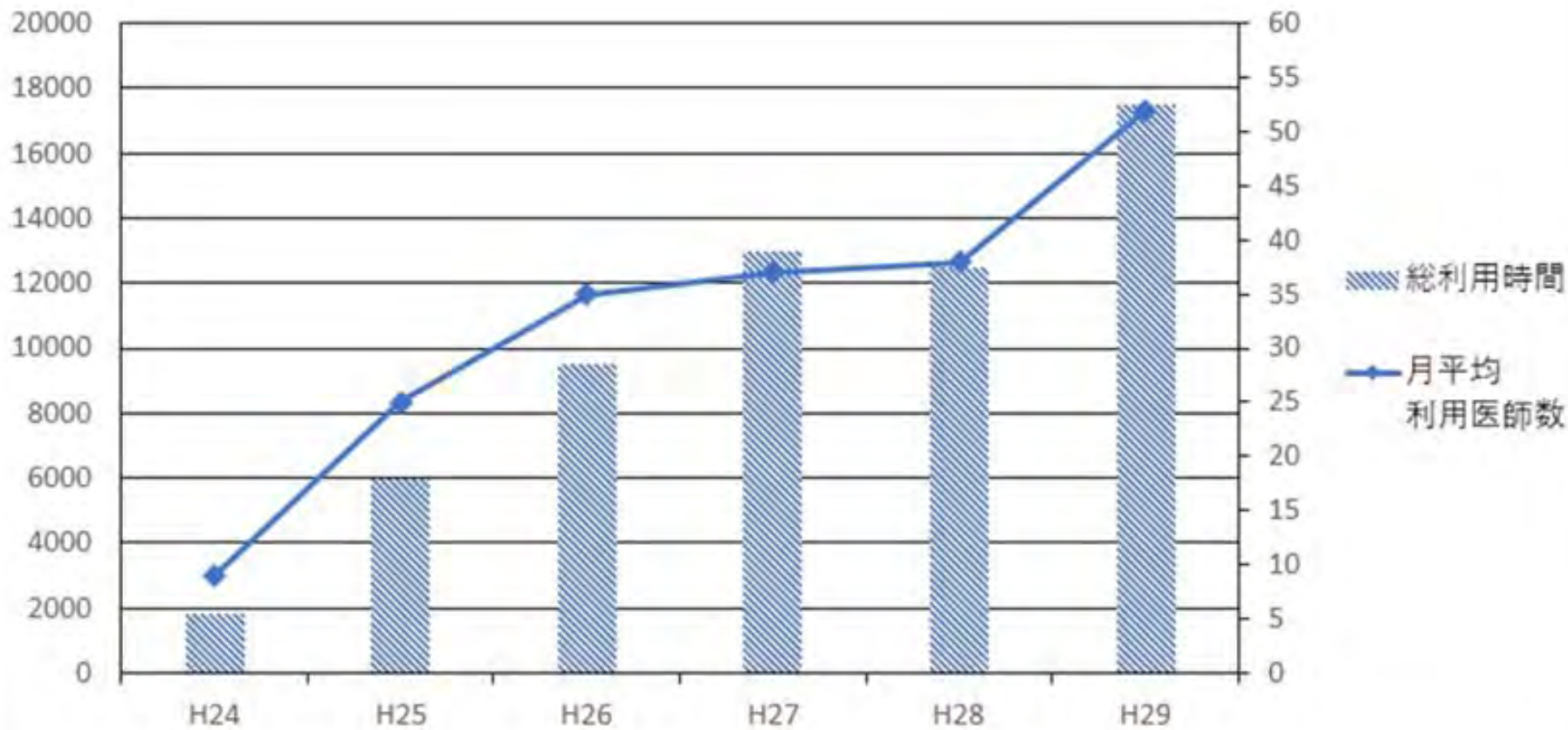
登録サポーターの年齢



保育サポート一斉利用実績

総利用時間(時間)

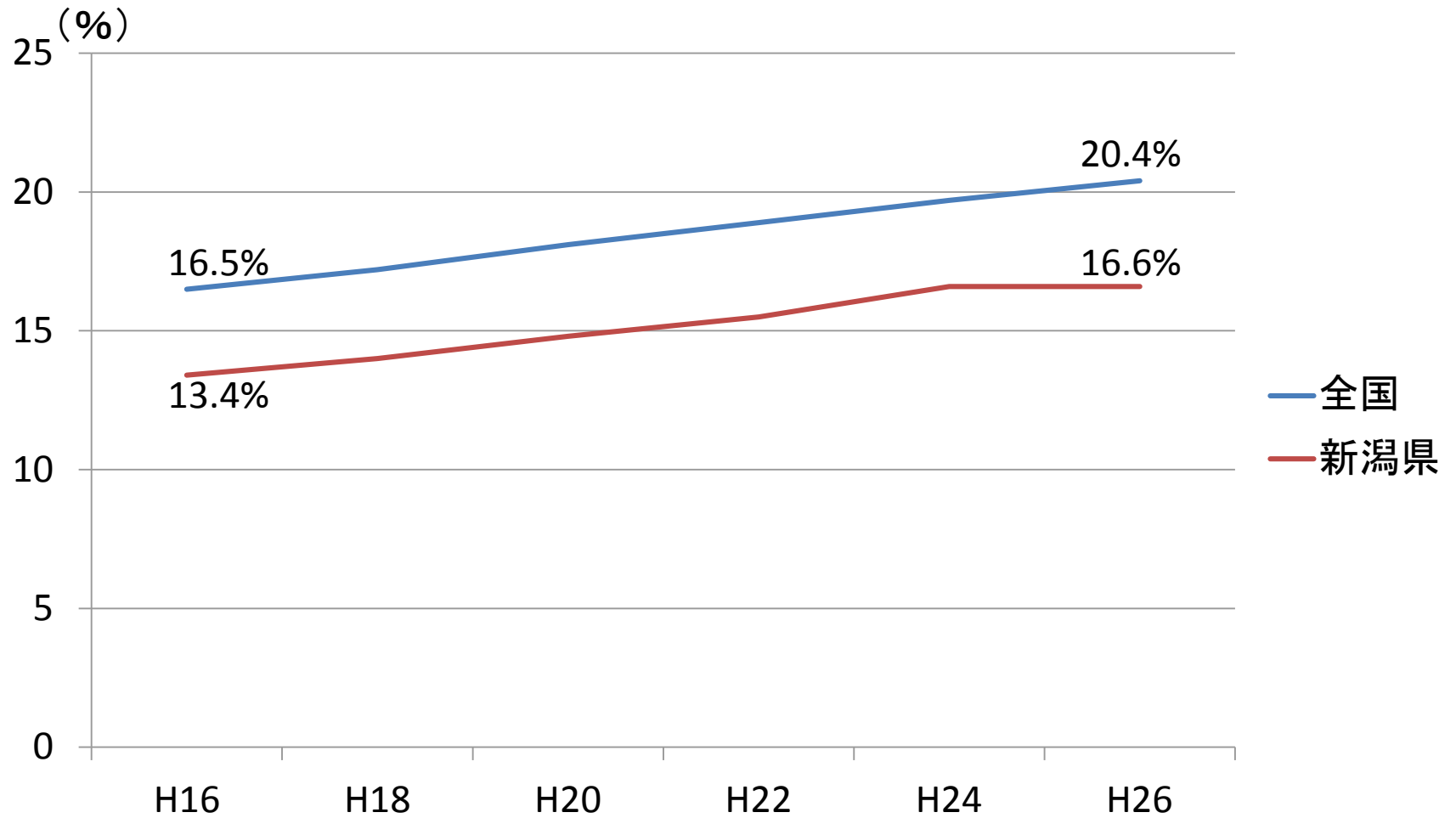
利用医師数(人)



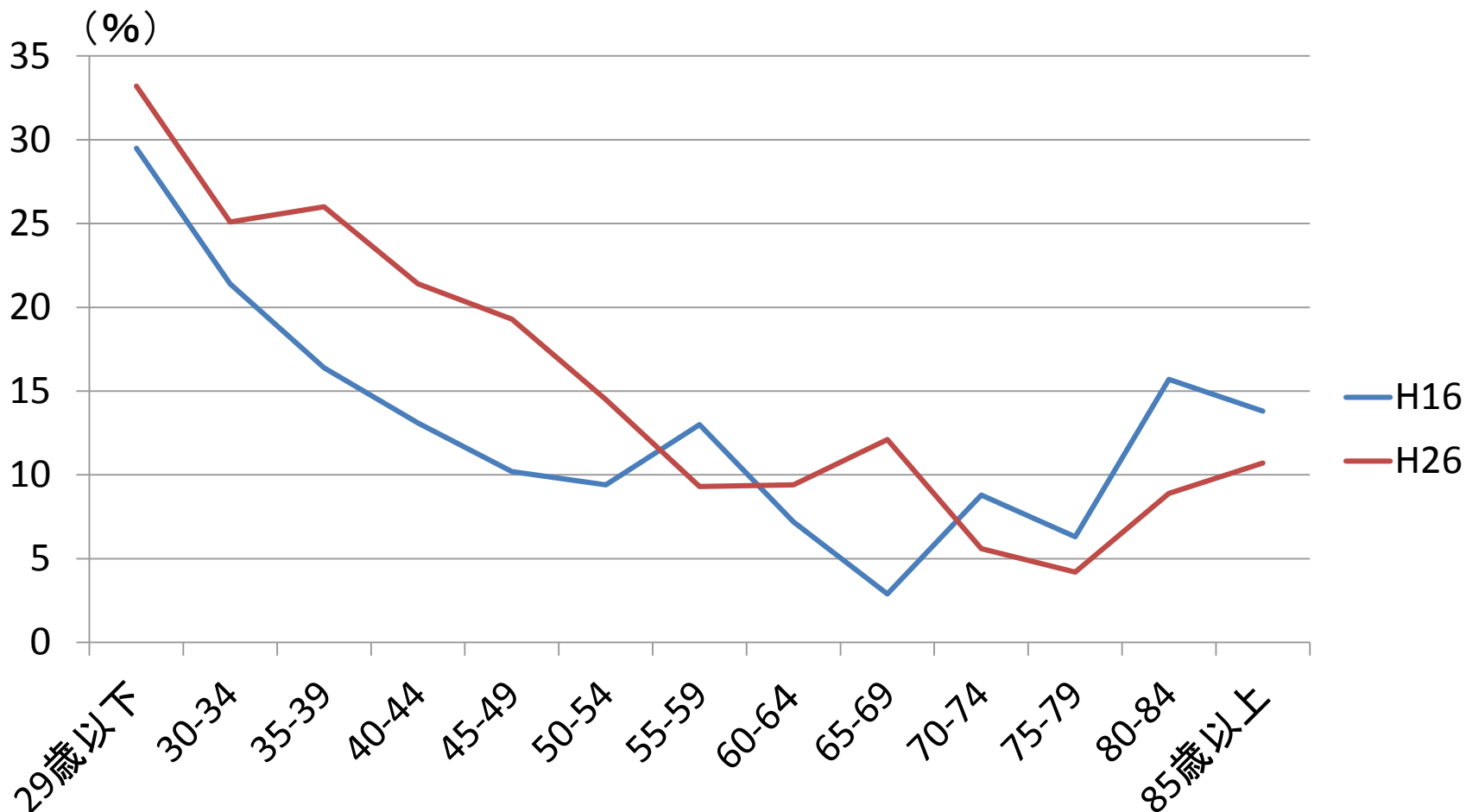
保育サポーターバンクの円滑な運営のために

- 保育サポーターバンク運営委員会
- 保育サポーター研修会
- 保育サポーター意見交換会
- 保育サポーター資質向上研修会
- 保育サポーターバンク通信の発行
- 子育て相互援助活動補償保険
 - ・ サービス提供会員傷害保険
 - ・ 賠償責任保険
 - ・ 依頼子供傷害保険
- 送迎時キッズタクシーの利用について検討中

新潟県女性医師比率の推移



新潟県女性医師比率の年齢別構成



- ・子育て世代(~44歳)の3人~5人に1人は女性医師が占める。
- ・女性医師のうち子育て世代が53.0%を占める(H26 409人/771人)。

新潟県医師会の取り組み

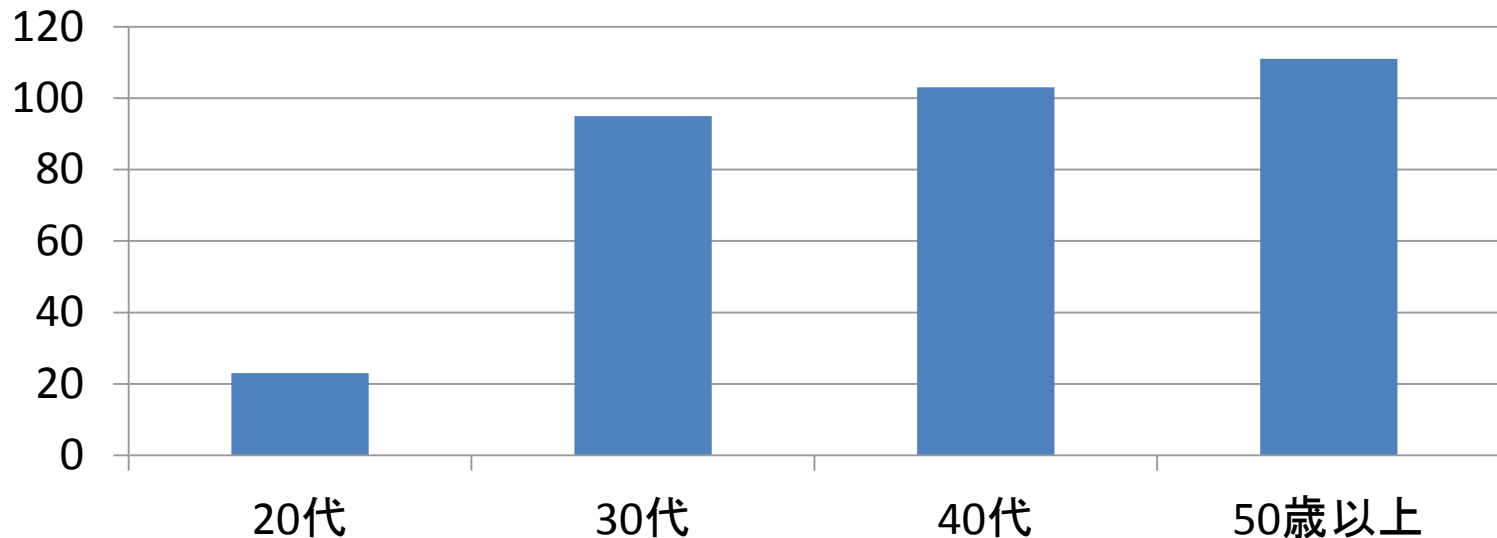
—保育サポーターバンク設立に向けて—

- H28年10月 群馬県医師会今泉理事から概要説明・資料提供
- H29年 2月 新潟県病院長会議で黒川典枝先生の講演
「山口県における女性医師支援の活動」
- H29年 6月 女性医師支援事業に関する懇談会で意見交換
- H29年 7月 女性医師の就業等に関するアンケート調査
- H30年 1月 新潟県女性医師支援センター運営委員会に提案
- H30年 4月 新潟県基金事業として採択、県から委託を受ける
- H30年7月 女性医師支援事業に関する懇談会で意見交換
- H30年10月 県福祉保健部医師・看護職員確保対策課と
事業の具体的内容について打ち合わせ

女性医師の就業に関するアンケート

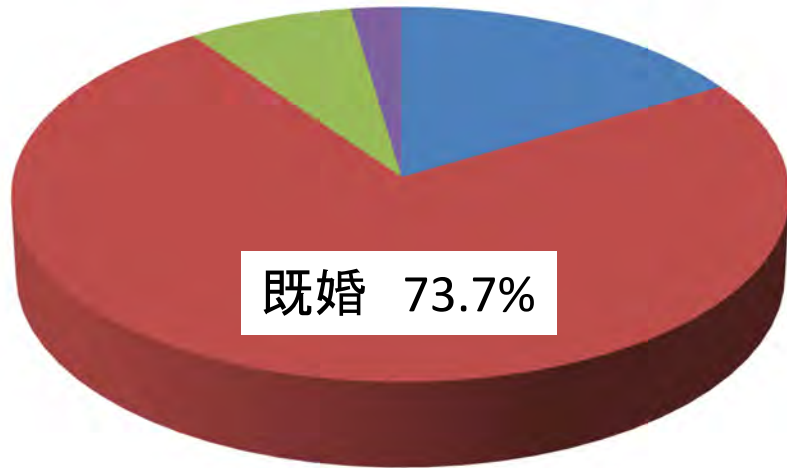
- ・ 実施期間 平成29年7月20日～8月31日
- ・ 回答数 334名
- ・ 回答率 約 43.3% (H26時点の新潟県女性医師数771人)

年齢分布



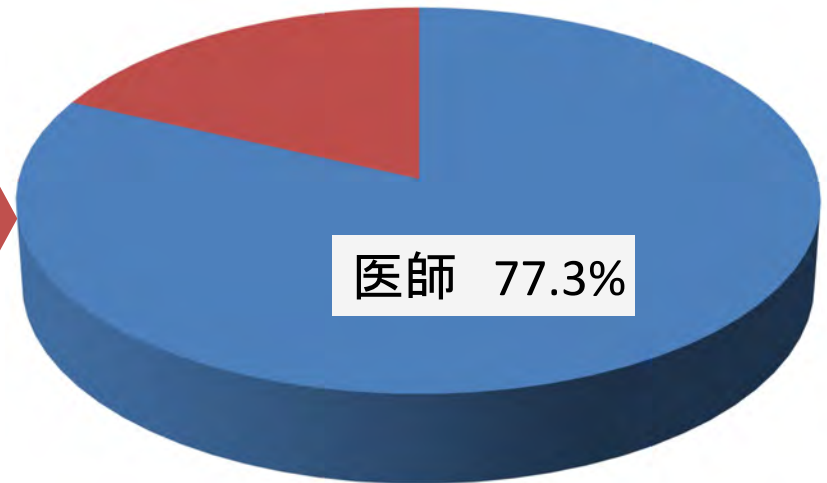
結婚の有無と配偶者の職業

結婚の有無



■ 未婚 ■ 既婚 ■ 離婚 ■ その他

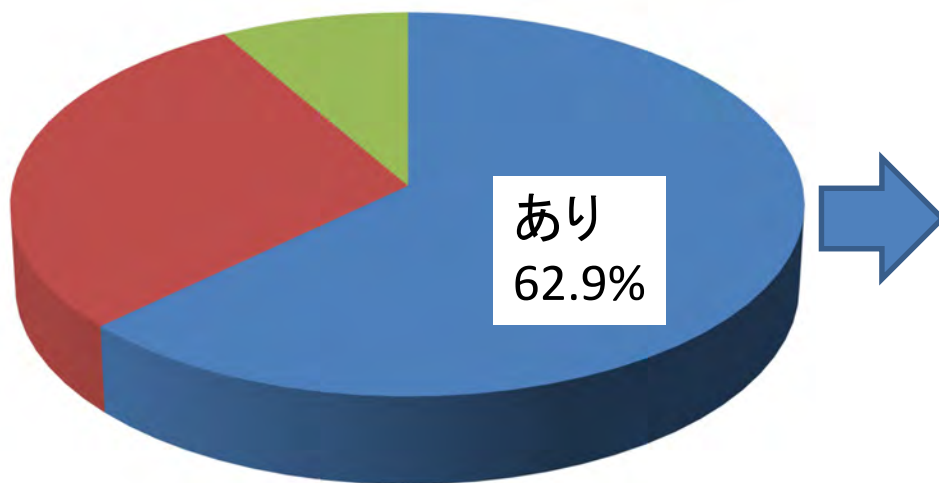
配偶者の職業



■ 医師 ■ 医師以外

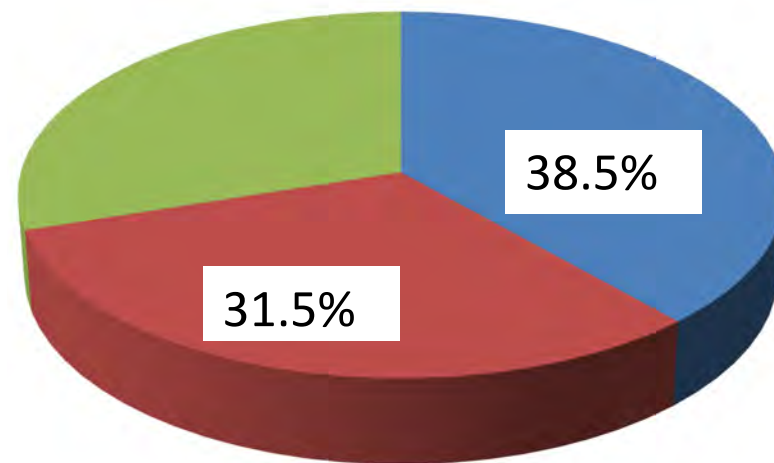
子供の有無と就学状況

子供の有無



■ あり ■ なし ■ 無回答

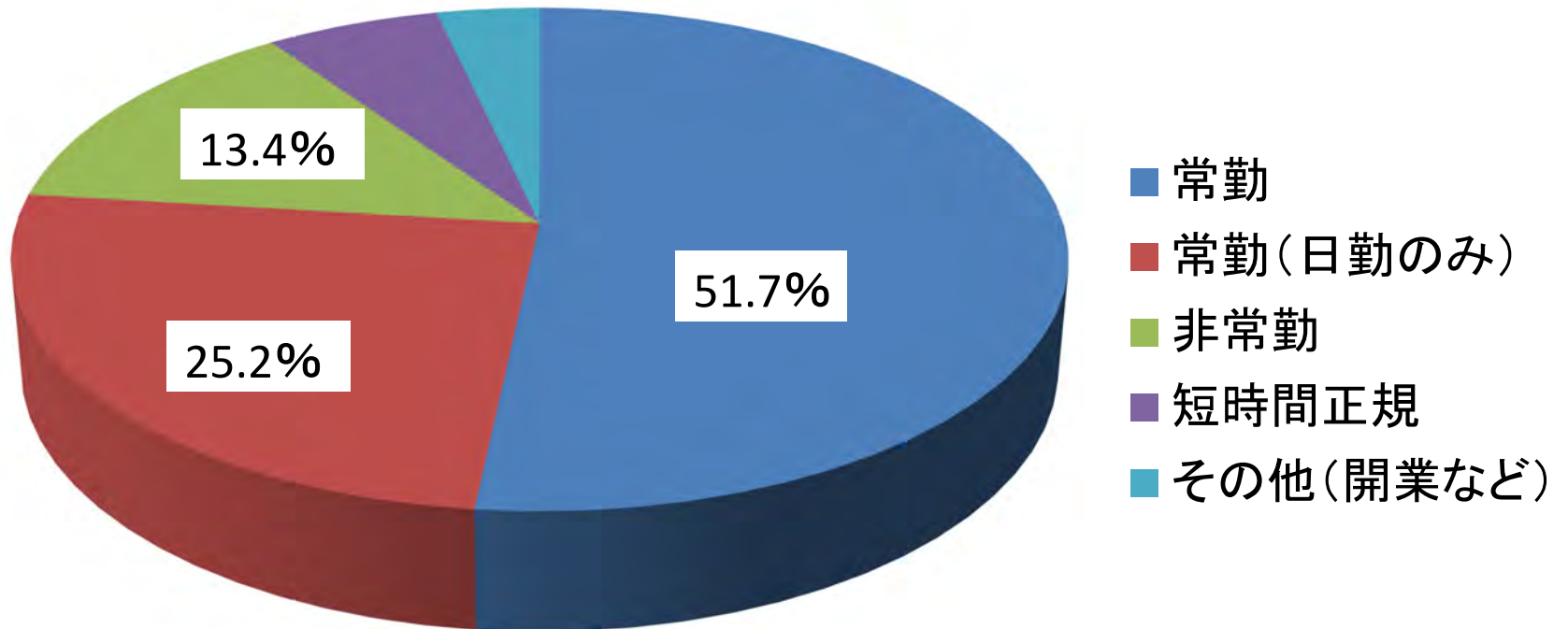
就学状況



■ 未就学児 ■ 小学生 ■ 中学生以上

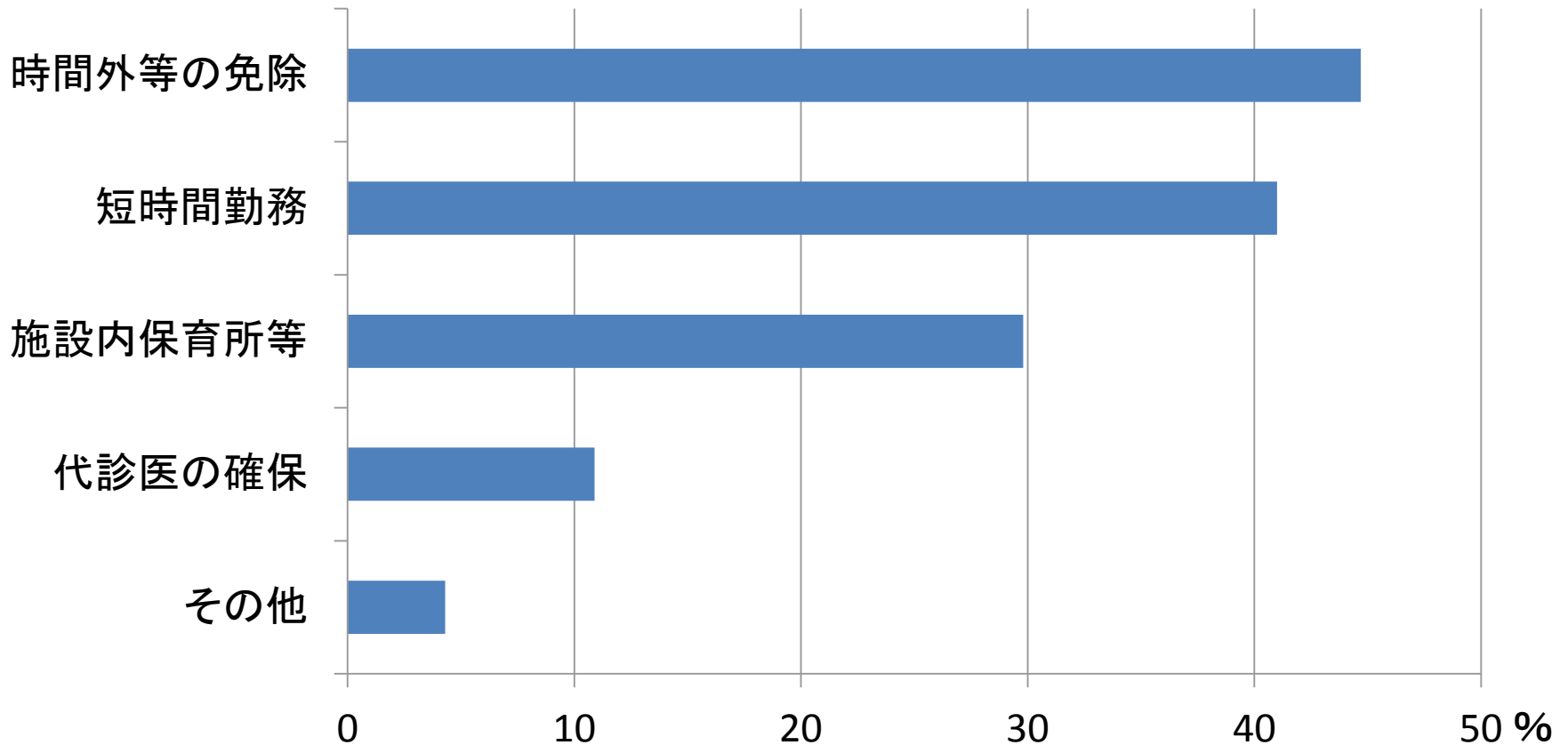
現在の勤務形態

就業率 98.5% (329名/334名)



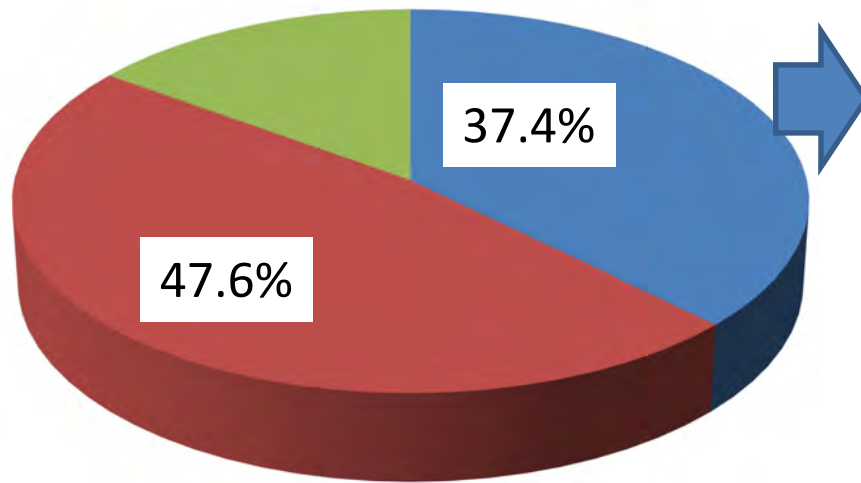
職場における就労環境の整備

回答数329名における比率(複数回答可)



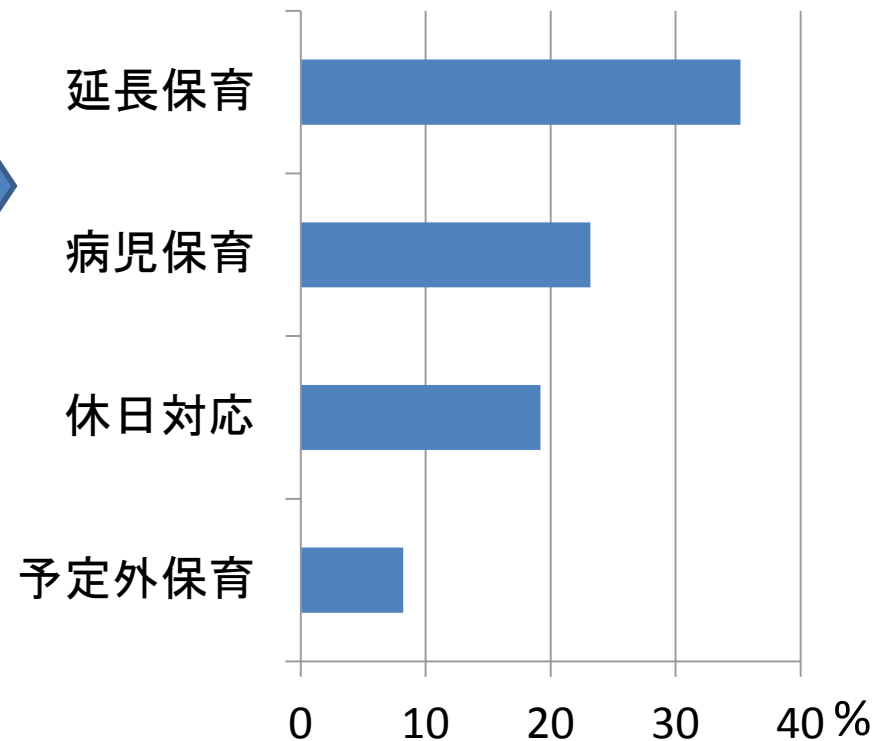
院内保育所の有無と対応

院内保育所の有無



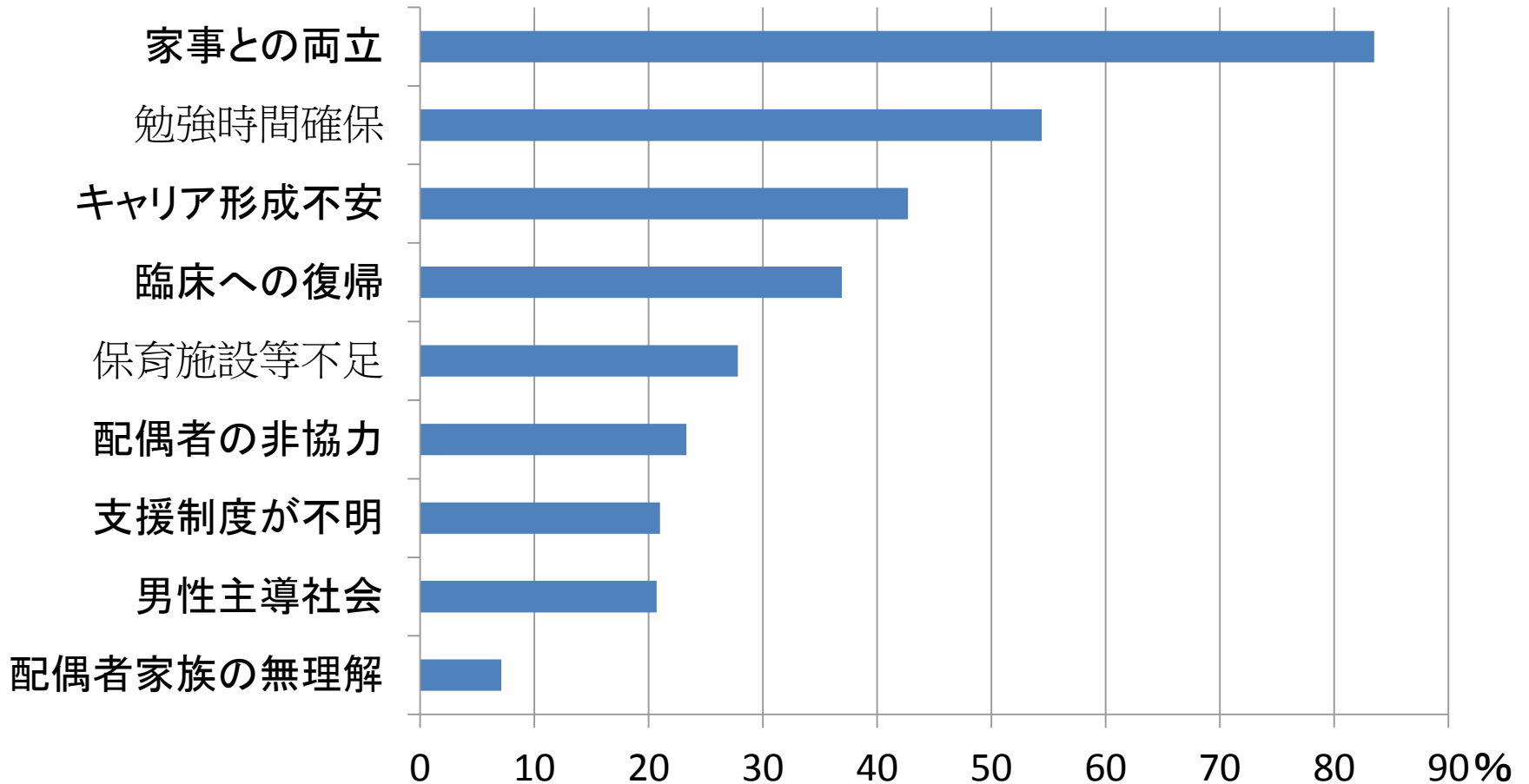
■ 設置有り ■ 設置なし ■ 無回答

院内保育所の対応



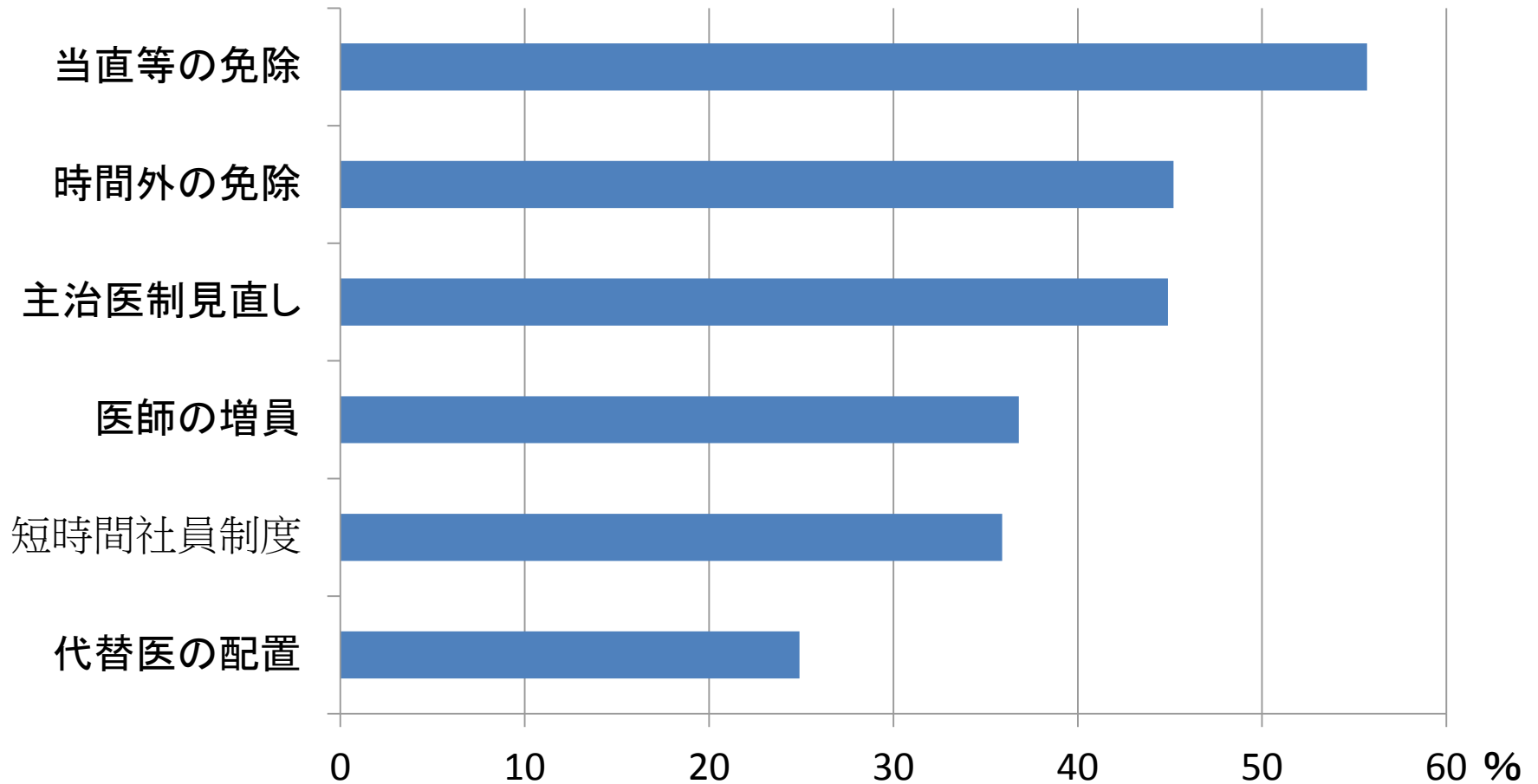
育児の悩みについて

複数回答可



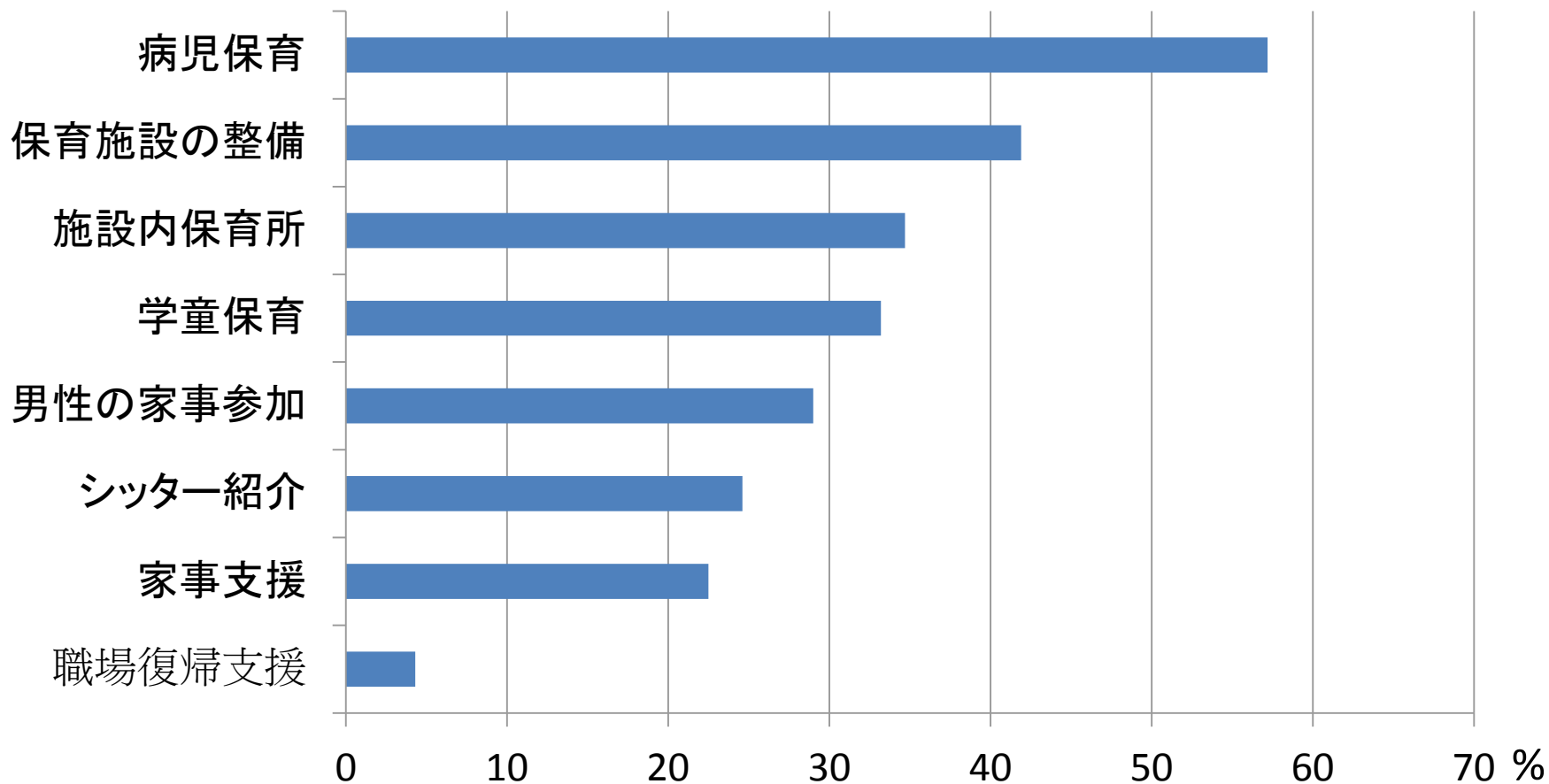
育児に必要な制度について

(優先度の高いものから3項目まで回答)



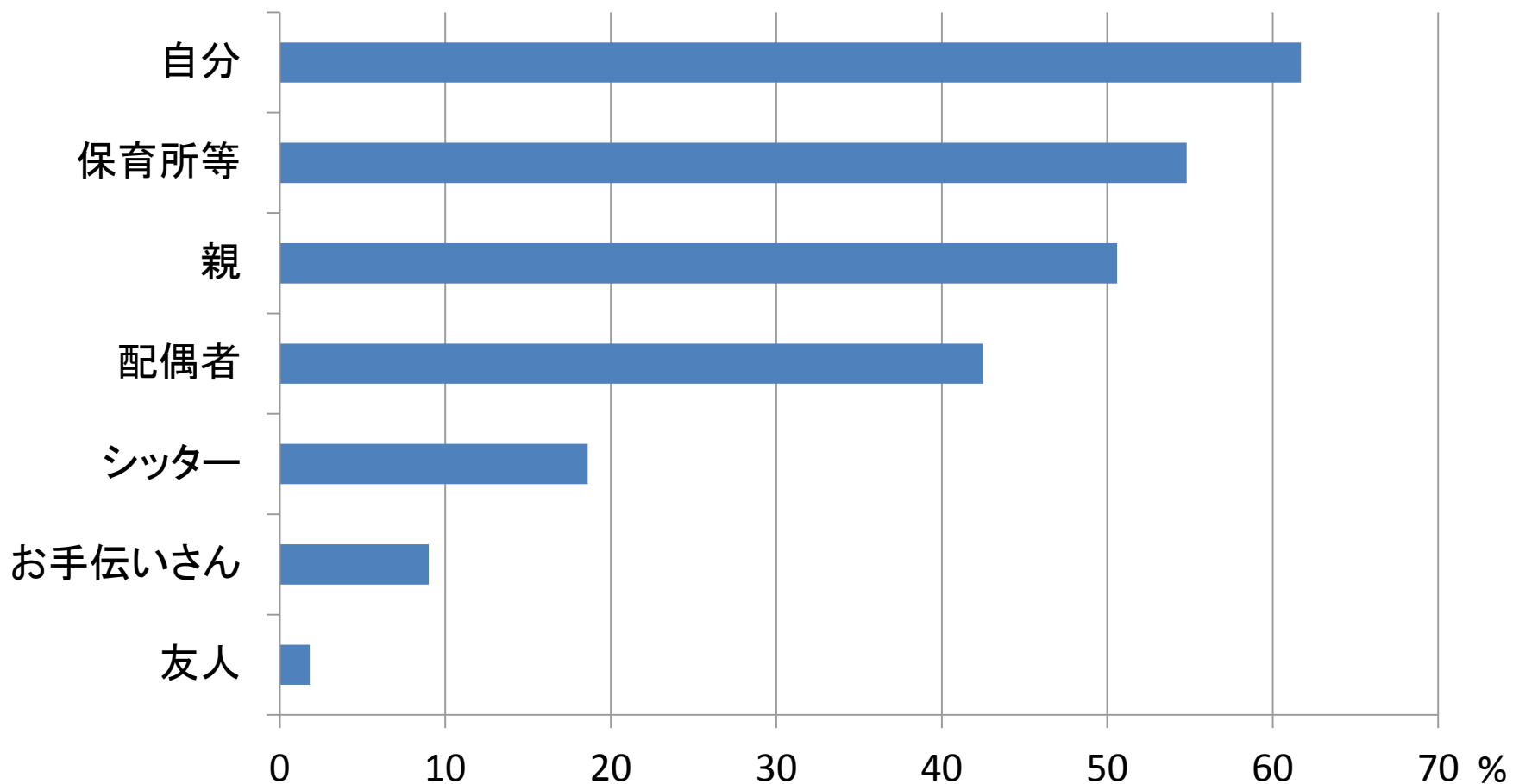
育児に必要な支援策について

(優先度の高いものから3項目まで回答)



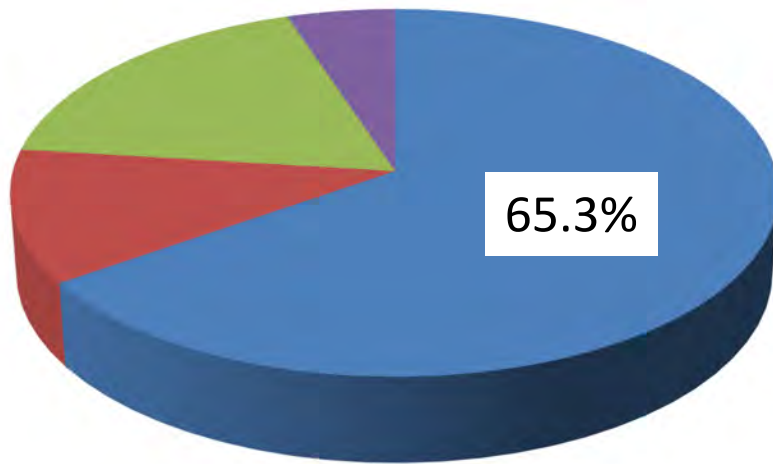
主な育児担当者・支援者

複数回答可



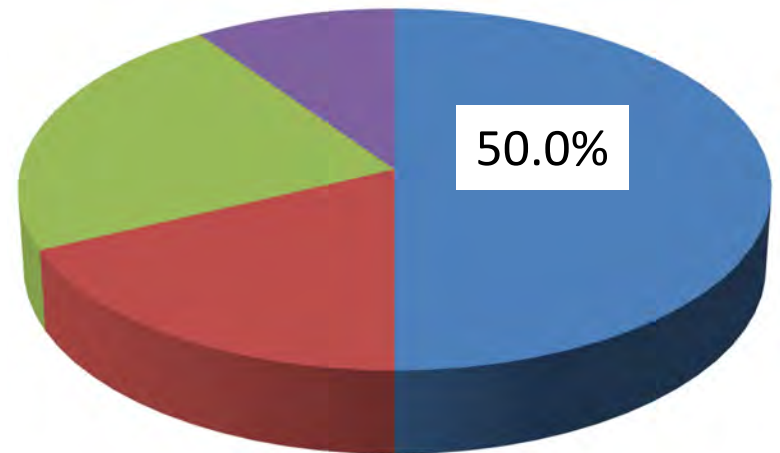
保育サポーターの利用について

利用してみたいか



■ 利用したい ■ 利用したくない
■ わからない ■ 無回答

サポーターを利用することで働き方を見直してみたいか

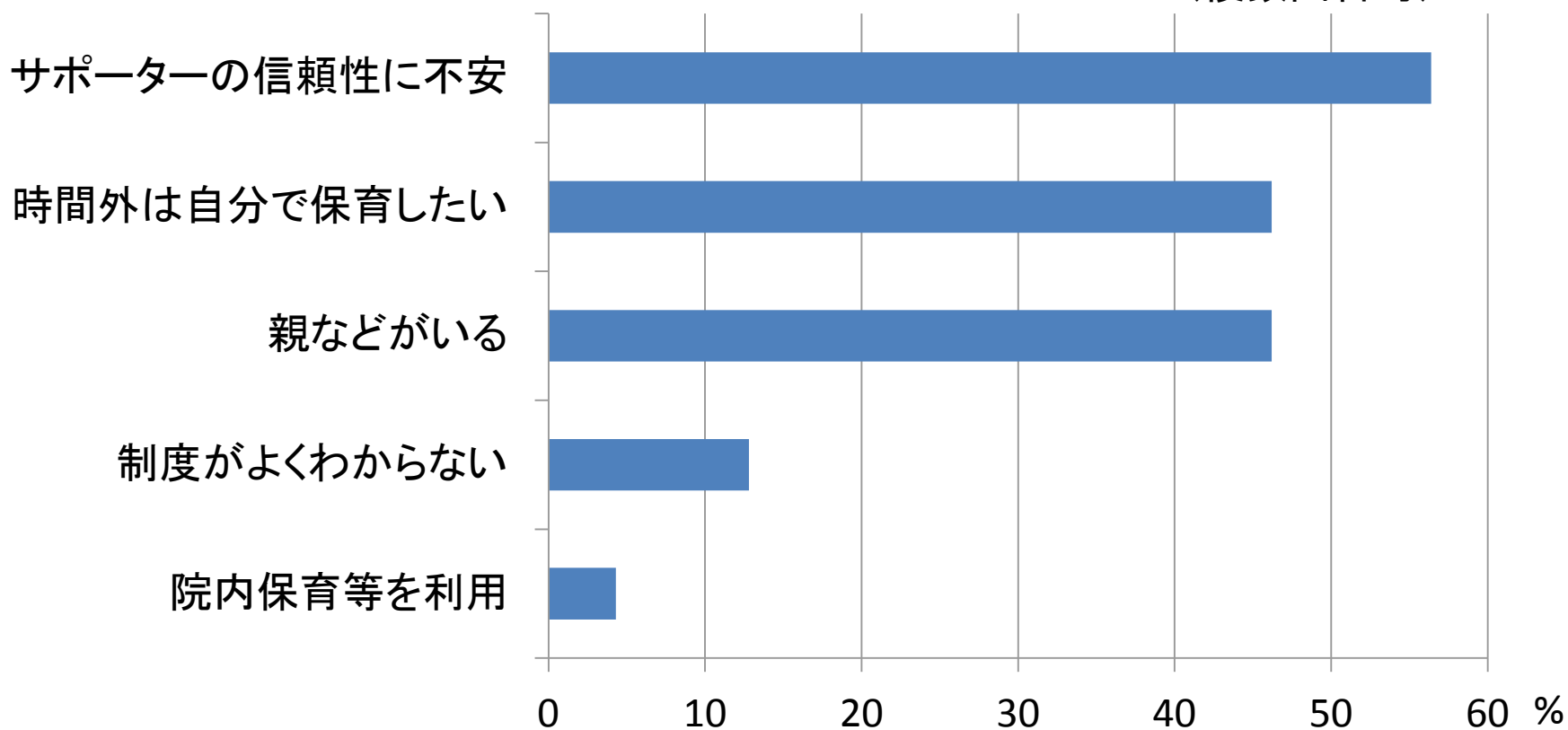


■ 見直したい ■ 見直さない
■ わからない ■ 無回答

保育サポーターを利用しない理由

保育サポーターを利用したくない 39名/334名 (11.7%)

(複数回答可)



女性医師支援事業に関する懇談会(H30.7.29)

参加者: 育児中の女性勤務医 8名(大学病院 4名、一般病院 4名)
新潟県医師会 3名(副会長、男性理事、女性理事 各1名)
新潟県医師会 女性勤務医小委員会 委員 4名

(民間のベビーシッターについて)

- ・ 割高だが教育制度が整っており、安心感がある。
- ・ 急な業務の延長や緊急時の呼び出し、夜間の対応はできない。

(病児保育について)

- ・ 急な熱発時なども、当日午前の業務に支障が出ないようなサポートがほしい。

(勤務環境・支援制度について)

- ・ 大学病院では診療科によって支援制度やスタッフの意識が異なる。
- ・ 時短などの制度があっても堂々と、気持ちよく使えないのでは意味がない。

(保育サポーター制度について)

- ・ 民間業者ができない隙間のサポート、女性医師の情報共有の場、出産前後の女性医師は孤独なので相談できる場所として有用ではないか。

新潟県における女性医師サポート事業の概要

1. 情報収集・提供

- ・出産・育児支援制度、民間保育サービス等の情報一元化
- ・HP(医師ナビにいがた等)や女性医師応援ガイドブック等による女性医師への情報提供

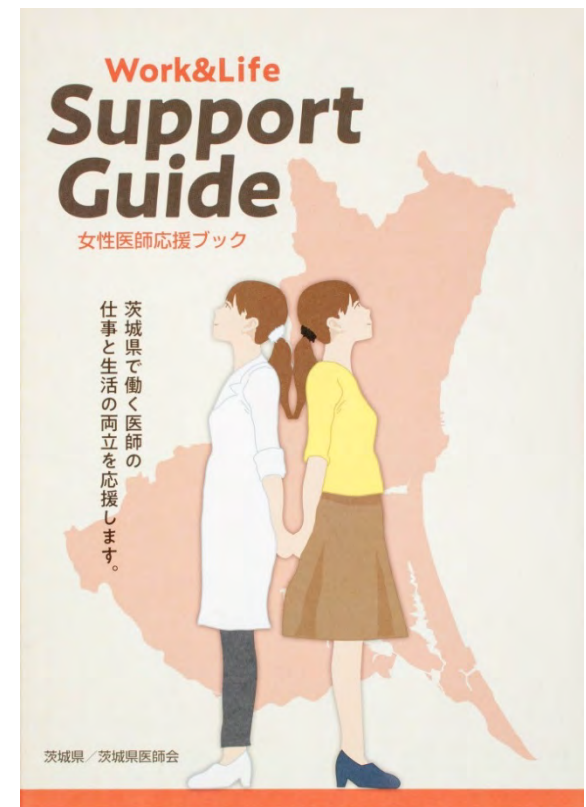
2. ワンストップ相談窓口の開設と専任スタッフの配置

3. 民間保育サービスの補完支援検討

- ・緊急時や夜間への対応を業者と調整

4. 保育サポーターバンクの立ち上げ

- ・民間業者では行き届かない女性医師のニーズに合った保育サービスの提供



ご清聴ありがとうございました

- 本日までご紹介できなかった関東甲信越・東京ブロックの各都県医師会も、それぞれ独自の素晴らしい取り組みをされています。
- 今後もブロック会議で情報共有・連携をはかり、他県・都医師会の先進的な取り組みを参考にして、女性医師が生き生きと活躍できる環境整備に努めます。

